



いつでも・どこでも・だれでもできる国際理解教育を目指して

## 2013 年度をふりかえって

オホーツク国際理解教育研究会長 美幌町立旭小学校長 光成 英二

毎日のように、テロや紛争のニュースが新聞に掲載されています。今世界は歴史・民族・宗教を超えた、真の平和を必要としています。本研究会の活動は世界から見れば小さなものかもしれませんが、互いに理解する心を求め、さらに世界平和を希求して活動を続けています。

今年度は、1 1 月 2 6 日に津別町立津別中学校を会場にして管内大会を開催致しました。研究主題「自分と地球をつなぎ、未来を切り拓く児童生徒の育成」のもと、津別中学校の渡邊美希先生の英語の授業を中心に据えて、基調報告、ワークショップ、研究協議、講演会と盛りだくさんの内容で、とても充実した研究大会となりました。久しぶりの中学校での授業でしたが、人と人のコミュニケーションの重要性を改めて認識しました。

当日は多くの方々から貴重なご意見やご示唆を頂きました。また肌寒い季節にもかかわらず、本研究大会が成功裏に終了することができましたことに、関係の皆様へ感謝を申し上げます。さらにご助言を頂きましたオホーツク教育局松永指導主事、

ご講演頂きました北海道教育大学釧路校の中村教授をはじめ、会場を提供して頂いた津別中学校の関係者の皆様にも重ねて感謝を申し上げます。

振り返ると 1 1 月 1 日には釧路において全道大会が行われ、国語や社会をはじめ多様な教科での取り組みが発表されました。身近な事柄を切り口に世界の環境や文化に至る内容で、とても興味を引くものでした。次年度全道大会は札幌市ですが、2 9 年度のオホーツク管内で行う全道大会に向けて、いよいよ準備が始まります。今年で 2 6 回目をむかえた管内大会を基礎にして、前回北見市で行った全道大会に見劣りしないよう計画を進めて行きたいと思えます。FLA-P の活動も成果を積み重ねています。海外や国際理解に興味を持っている若い会員の充実を図りながら、真の国際理解を目指すオホーツク管内として前進していくことを希望しています。これからも皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

# 地球市民

オホーツク国際理解教育研究会

2014/02/07 No.3

ご案内

### 平成 25 年度総会・懇親会について

平成 26 年 2 月 22 日（土）に実施します。多くの方のご出席をお待ちしております。

<総会> 時間： 1 6 : 0 0 ~

会場： オホーツクビール園

北見市山下町 2 丁目 2 - 2

0 1 5 7 - 2 3 - 6 3 0 0

<懇親会・激励会>

時間： 1 8 : 0 0 ~

会場： オホーツクビール園

会費： 3 5 0 0 円

出欠については、1 8 日までに、北見中央小学校河原教頭先生まで、電話または FAX で連絡してください。



### 会費納入について

前号で案内しましたが、会費の納入をお願いします。

会費の納入はお済みでしょうか？ 3 0 0 0 円です。

お問い合わせは

北見市立南小学校天野昌明教頭先生

(TEL0157-23-7538) まで

# 管内研究大会 in 津別中学校

## 基調報告 キーワード:行動化

吉本研究部長から、基調報告がありました。「いつでも、どこでも、だれでも行える国際理解教育」を目指すに当たり、「行動化を促す授業づくり」が強調されました。

ここでいう「行動」とは、実践という直接的な行動のほか、情報収集や技能習得・提案・参加のような次の行動につなげるための準備や、将来へつながる行動「そのためには…」といった間接的な行動も含まれています。



され、「6年生の職業&将来の夢にあ場面設定はないですか?」という問題提起がされました。

さらに、雄武町立共栄小学校田川教諭から、6年生の単元「When is your birthday」での補助教材(デジタル教材)の利用例が紹介されました。

## 公開授業 キーワード:共通点

津別中学校渡邊美希教諭が、1年英語で公開授業を行いました。英語科としての目標「助動詞 can の使い方」のほか、英語という外国の文化を学ぶ中で「自国の文化について考える」「意外な共通点やつながりに気づく」という目標が盛り込まれた授業でした。



## 講演会 キーワード:気づき



北海道教育大学釧路校中村典生教授から「おでんに欠かせないもの」の演題で講話を頂きました。

大学時代のおでんづくりの話し合いを通して「慣れ親しんだ生活から生まれる自分の中の芯のようなものがあって、初めて他と比較ができるようになり、違いに気がつく」という国際理解の原点についてのお話がありました。ことばの発達と国際理解では「区切りのない世界から切り取るのは必要性。」「英語では brother と sister のように男女の区別しかな

いように、言葉の中にある文化の違い・認識の違いが外国だけでなく、日本の中にもたくさんあるはず」という内容を、具体例を挙げながら説明していただきました。

軽快な話しぶりと興味を刺激される内容で、写真を撮るのをすっかり忘れていました。

## 外国語活動ワークショップ キーワード:必然性

小学校の外国語活動の中で、「なぜするのか?」ということにこだわった紹介がされました。

北見市立留辺蘂小学校藤田教諭からは、英語教材 Hi, friends! 中の「友だちを案内しよう」で必然性を高めるために「新しい ALT(あるいは ALT の友だち)が来たので、校内を案内する」という設定から、必要な用語や言い方を引出し、実践するという例が紹介され、実際に参加者がペアになって体験しました。



ビートルズが流れる中、子どもたちとコミュニケーションを取りながら授業が進められました。can を使った Bet Game では、積極的に友人や先生方に質問し、クラス全体で楽しむことができました。



また、北見市立上常呂小学校有路教諭からは、5・6年生の各課ごとの場面設定(必然性)が紹介